手塚治虫はかつて、あるインタビュの中で自らのまんがの表現技法を「記号的」という言い回しで説明している。それは聞きようによっては彼の絵におけるコンプレックスを告白する内容ともとれ、その点でも興味深いが、同時に自らのまんが表現そのものの限界を手塚自身が明快に解説している点で注目に値するものである。